

北海道の奥尻島へ行って、北海道南西沖地震を振り返る

7月19日～21日、北海道の奥尻島へ行きました。函館から江差まではバスで、江差港から奥尻港まではハートランドフェリーに乗りました。島では民宿に2泊しました。

奥尻島では、1993（平成5）年7月12日に北海道南西沖地震が発生しました。震源に近い奥尻島では、地震発生から2～3分後に津波の第一波が襲来したと見られています。特に北端部の稲穂地区、南端部の初松前と青苗地区、西海岸の藻内地区などの集落が壊滅的状態になるなど、大きな被害をもたらしました。津波の高さは、藻内地区で約29mです。

青苗地区では、灯油備蓄タンクが押しつぶされて、灯油が流出して火災が発生しました。地震の時刻は夜中の10時過ぎ、漁港の漁師が多いので、ほとんどの人が（酒酔いで）就寝中でした。火事によって、死者2人、全焼家屋189棟、108世帯311人（全部で504世帯1,401人中）が被害にあいました。灯台も津波で倒れました。

奥尻地区では、崖地の崩壊がホテルを飲み込んで、島外からの宿泊客を含めて29人が犠牲になりました。

奥尻島津波館では、当時の地震と津波、火災の写真パネルを見ながら、女性の職員の方が熱心に館内を案内してくれました。28年前のことですが、体験談からは思い入れが直接に伝わります。

観光タクシーに乗って、運転手さんから話を聞きました。「地震の後で、北海道から多くのボランティアが来てくれた。島は今は防潮堤や道路も整備された。島には高校が無いので、若者は皆な北海道へ出ていく。町では、中学校の山村留学行っていて、全国から生徒が来ている。この島には、見るべきところが余りない。」とのこと。

私は、素晴らしい自然があって、ウニや魚も新鮮で、のんびり（私はいつでものんびりだが）と島生活ができる良い所なのに、と思いました。島なので、全ての生活物資はフェリーで運ばれます。新聞も昼に港に着きます。

奥尻島の地震と津波・火災は、「(複合) 災害大国日本」の幕開けだったのでは

奥尻島の地震と津波・火災は、今思えば「(複合) 災害大国日本」の幕開けだったのではと思います。奥尻島の災害について、全国でもっと学ばれていたら、阪神淡路大震災や東日本大震災において、犠牲者はもっと少なくなっただけではないでしょうか。

【北海道南西沖地震】

1993（平成5）年7月12日22時17分に地震が発生。震源の深さは34km、マグニチュード7.8。震度6の烈震と推定される。（奥尻島には地震計が無かったので）

（人的被害）死者172人、行方不明26人、（住家被害）全壊437棟、半壊88棟

（農業被害）田44.0ha、畑10.0ha、（水産被害）沈没流出漁船421隻、破損漁船170隻



【地震と津波の慰霊碑—海の向こうは北海道本土（奥尻島賽の河原）】



【津波と火災時のパネル（奥尻島津波館）】

【怒り】 閉会式での小池都知事の五輪旗の旗振り、私には「人類がコロナに打ち負かされた証しとしての」白旗に思えた